

# 福岡県立総合プール

## 個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	6 1
施設所管課	教育庁教育振興部 体育スポーツ健康課

令和2年2月

❀ 福岡県 ❀

福岡県立総合プール  
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
	(3) その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 施設の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容等	

## 第1章 概要

### (1) 対象施設の概要

対 象 施 設	福岡県立総合プール		
所 管	教育庁教育振興部体育スポーツ健康課		
整 理 番 号	61	竣工年度	平成元年度
所 在 地	福岡市博多区東平尾公園2丁目1番3号		
敷 地 面 積 ( m <sup>2</sup> )	21,866.405	建築面積(m <sup>2</sup> )	10,742.995
主 構 造	RC	延床面積(m <sup>2</sup> )	12,746.349
主 要 建 築 物	県立総合プール		

### (2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	県立総合プール				
棟 番 ・ 枝 番	1011	—	1	竣工年度	平成元年度
建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	10,742.995		延床面積(m <sup>2</sup> )	12,746.349	
構 造 ・ 階 数	RC造 地上3階 地下1階				
各 階 面 積 及 び 用 途					
階別	階床面積(m <sup>2</sup> )	主 な 用 途 ( 室 名 他 )			
3F	655.593	機械装置室			
2F	2,060.087	観客席			
1F	8,042.090	50m プール及び25m プール等			
B1	1,988.579	中央監視盤室及び機械装置室			

福岡県立総合プールはとびうめ国体開催に当たり、平成元年度に竣工しました。

水泳競技の普及振興並びに競技力の向上を図り、心身の健全な発達に寄与することを目的とした施設となっています。

### (3) 計画期間

計画期間は令和8年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



## 第2章 優先順位の考え方

### (1) 施設間の優先順位

当該施設は、築30年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。他の県有施設と比較して改修等を優先すべき個別事情は特にありませんが、施設を管理していく上で必要な対策を順次適切に行っていきます。

### (2) 施設内での優先順位

50mプールは冬季にスケートリンクになりますが、リンクに氷を張るためのターボ冷凍機が老朽化しており、氷を作るのに多くの時間を費やし、スケートやアイスホッケーの大会の運営に支障をきたす可能性が高くなっています。そのため、ターボ冷凍機の改修を優先して行います。

また、ろ過装置が老朽化し、故障した場合、交換部品が無く修理が不可能な状況です。そのため、万が一故障した場合には、水質の衛生状況が悪くなり、営業できなくなります。そのため、優先して改修を行います。

その他標準的な改修時期を迎える部位が出てくるため、予防保全型管理による計画的な改修を行っていきます。

### (3) その他

敷地内にある、福岡県立スポーツ科学情報センターと併せて、「アクション福岡」の愛称で県民に親しまれています。

### 第3章 個別施設の状態等

#### (1) 個別施設の状態

外部において躯体の負荷がかかる部位や金属製の外装材の老朽化が見られますが、建物に大きな問題はありません。

施設設備の不具合等が発見された場合には事後保全による修繕を行っています。予防保全による改修はできていない状況です。

#### (2) 建物全体の現存率

#### 建築物現存率調査票

施設名称	福岡県立総合プール		建物名称	県立総合プール						
所在地	福岡市博多区東平尾公園2-1-3		棟番・枝番	1011	-	1	築年数	30年		
建築年度	平成元年度	建築面積	10,742.99 m <sup>2</sup>	現存率	82.7	想定耐用年数	65年			
構造・階数	RC(一部S) 3	延面積	12,746.34 m <sup>2</sup>							
区分	構成(P)		仕様	経過年数	現象(K)	×100	(PK)	ΣPK/ΣP		
構造	躯体	40	RC(一部S)	30	1.000	100.0	4,000.0	-		
	小計							4,000.0	100.00	
主要部 仕上げ	屋根・防水	20	長尺金属板葺き	30	0.733	73.3	1,466.0	-		
	外壁	20	カーテンウォール	30	0.800	80.0	1,600.0	-		
		小計							3,066.0	76.65
電気設備	受変電設備	10		30	0.600	60.0	600.0	-		
	小計							600.0	60.00	
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		30	0.600	60.0	600.0	-		
	小計							600.0	60.00	
合計							8,266.0	82.66		

この結果、福岡県立総合プールの県立総合プールの現存率は、「82.7」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	RC（一部S）	100.0	耐震診断による Is 値 <sup>1</sup>	Is 値が 1.0 以上 もしくは新耐震基準
屋根	長尺金属板葺き	73.3	防水層からの漏水 またはその痕跡	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改築 10 年未満
			防水層の劣化	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・少数の部材に少し の劣化がある
			経年（新設もしくは改修後）	経年 20 年以上
外壁	カーテンウォール	80.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・少数の部材に少し の劣化がある
			漏水の発生・痕跡の有無	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・少数の部材に少し の劣化がある
内壁	石こうボード EP タイル貼り モルタル EP	100.0	劣化	仕上げ材等に劣化が部分的に発生しているが機能上問題なし
天井	吸音板 石こうボード EP ステンレスパネル	80.0		
床	タイル貼り ビニールシート 張り モルタル塗り	80.0		
建具	アルミ	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
受変電設備	あり	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 25 年以上

<sup>1</sup> Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
自家発電設備	自家発電設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 25 年以上
動力設備	動力設備	20.0	経年（新設後更新後）	経年 25 年以上
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
その他設備	インターホン TV 共同受信 防犯設備等 表示設備	20.0	経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空気調和設備 換気設備 排煙設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給排水設備 衛生設備 給湯設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 25 年以上
消火設備	消火設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 25 年以上
エレベーター 設備	エレベーター設 備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 25 年以上

○特殊設備の状態

調査部位	種類・形式等	現在の状況
放送設備	非常放送設備 ミキサー アンプ	・ミキサー、アンプ等については施設の建設当初から30年以上更新されておらず多くの劣化がある。
大型映像装置		・操作パソコンが故障した場合、パソコンの修繕が困難な状況。
競泳システム		・タッチ板が劣化して正常に作動しないものがある。 ・システムが古く、大型映像装置との接続ができない。



(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
1989	30	新	—	—	—	—	65 年

経年による部分的な劣化は見られるものの、建物に大きな問題が無いため、福岡県立総合プール（県立総合プール）の目標耐用年数を原則どおり 65 年（残年数を 35 年）と設定します。

## 第4章 対策の内容等

### (1) 改修・更新について

築30年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は35年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

### (2) 対策の平準化について

優先順位を選定の上で費用や事務負担軽減を図る観点から平準化を行い、順次改修を行うこととします。

まず、スケートリンクを製氷するためのターボ冷凍機や、プールの水をきれいに保つためのろ過機の劣化など、通常営業に支障をきたす恐れがある設備の改修を実施します。

その他、大会運営や利用者の利便性を考慮しながら、劣化の激しい設備や耐用年数を超えている設備を計画的に改修します。

### (3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取組みは以下のとおりとなりますが、取組みの進捗状況等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うことがあります。

(百万円)				
区分	項目	実施時期		
		令和元～2年度	令和3～5年度	令和6～8年度
主要部仕上げ	屋根・防水、内壁、天井、建具	0	50	57
電気設備	電灯・電話設備、自家発電設備、動力設備、非常用照明・火災報知設備、その他の設備	15	8	195
機械設備	給排水・給湯・ガス設備、空気調和・排煙設備、消火設備、エレベーター	344	145	175
その他	大型映像表示装置等	61	14	26
	計	420	217	453

※上記は実際の予算や事業費等とは異なります。